

平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 国語（書写）（1/1枚目）

国語（書写）部会 部長（枝村 晶子）

調査の観点	発行者名	東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
1 内容 (1)発達段階に即している (2)興味・関心を引き出す配慮 (3)本市の学力の実態へ配慮		(1)楷書→楷書仮名→行書→行書仮名の配列で、発達段階に即している。 (2)書写のつば、書写のたねで興味関心を引き出している。 (3)本市の学力の実態に対応している。	(1)楷書→楷書仮名→行書→行書仮名の配列で、発達段階に即している。 (2)筆順が明記しており、キャラクターを用いて教材の関連付けをしてある。 (3)本市の学力の実態に対応している。	(1)楷書→楷書仮名→行書→行書仮名の配列で、発達段階に即している。 (2)教材のめあてを明示しており、興味を引き出そうとしている。 (3)本市の学力の実態に対応している。	(1)楷書→楷書仮名→行書→行書仮名の配列で、発達段階に即している。 (2)書写の必要性、目的をまとめており、筆の運びも分かりやすく図示している。 (3)本市の学力の実態に対応している。	(1)楷書→楷書仮名→行書→行書仮名の配列で、発達段階に即している。 (2)キャラクターを用い、分かりやすい解説を行っている。 (3)本市の学力の実態に対応している。
2 構成及び分量 (1)内容の組織配列、発展的記述 (2)発達段階に配慮した分量 (3)基本事項の押さえと補充教材 (4)発展教材への配慮		(1)配列は、楷書→楷書仮名→行書→行書仮名→使い分け→発展となっている。「古典から学ぼう」など発展的教材には発展マークがついている。 (2)発達段階に即している。 (3)用具や姿勢・筆記用具の持ち方から始まり、段階を追って基礎がおさえられている。 (4)手紙、のし袋、新聞の書き方が深められる。「書写テストに挑戦」を設定し、到達度を確認できる。	(1)配列は、楷書→楷書仮名→行書→行書仮名→使い分け→「書写を生活に行かそう」となっている。1年で基礎・基本、2・3年で発展的な学習に無理なくすすめる。 (2)発達段階に即している。 (3)小学校で学習した基本的な点画の復習から入っている。 (4)ノート、手紙、新聞などの書き方が深められる。	(1)配列は、楷書→楷書仮名→行書→行書仮名→使い分け→「生活に生かそう」となっている。書写学習の基礎・基本をおさえて学習ができる。 (2)発達段階に即している。 (3)小学校で学習した基本的な復習と姿勢や筆記用具の持ち方から入っている。 (4)ノート、手紙、電子メール、原稿用紙、ポスター、送り状、掲示物、願書の書き方が深められる。10の単元、習得する技能を焦点化して配列している。	(1)配列は、楷書→楷書仮名→行書→行書仮名→「効果的に文字を書こう」となっている。既習の学習を振り返りやすいように、巻末の資料を学年共通で扱うことができる。 (2)発達段階に即している。 (3)硬筆の文字を書くところから入っている。 (4)原稿用紙、レポート、手紙、ポスター、メッセージカード、包み紙、エメール、葉書の書き方が深められる。	(1)配列は、楷書→楷書仮名→行書→行書仮名→使い分け→「目的に応じて効果的に書こう」となっている。小学校の学習の確認をする「基礎編」から、中学校学習の「学習編」「資料編」の三部構成になっている。 (2)発達段階に即している。 (3)姿勢や筆使いから入り、基礎をおさえられている。 (4)手紙、封筒、はがき、送り状、願書、のし袋、原稿用紙の書き方が深められる。
3 表記及び表現 (1)生徒にとって読みやすい表現 (2)印刷、写真等の見やすさ		(1)字形の手本となる教材は、簡単な言葉で画数が少ない文字である。難解な表現はない。 (2)文字や写真、絵などの印刷・色彩が鮮明である。	(1)筆の動きが分かるように筆脈を朱色で示している。手本の字体は活字的である。難解な表現はない。 (2)文字や写真、絵などの印刷・色彩が鮮明である。特に写真の濃淡がはっきりしていて、細部まで見える。	(1)図やイラストが多い。毛筆の解説量は少ない。 (2)文字や写真、絵などの印刷・色彩が鮮明である。	(1)筆遣いが自然である。難解な表現はない。 (2)文字や写真、絵などの印刷・色彩が鮮明である。	(1)手本の書きぶりが一貫し、部分の形が統一されている。解説は少ない。難解な表現はない。 (2)文字や写真、絵などの印刷・色彩が鮮明である。
4 使用上の便宜 (1)全体の構成が見渡せるよう配慮 (2)課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮 (3)印刷、装丁への配慮 (4)地域性への配慮		(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)「振り返り」「学習しよう」など学びを振り返ったり、考えて書き込んだりする欄がある。 (3)教科書のサイズが大きい。 (4)特筆すべきことはない。	(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)学習の流れが2ページにわたって記載されている。 (3)特筆すべきことはない。 (4)特筆すべきことはない。	(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)「考えよう、話し合おう」を導入とし指導を進めることができる。 (3)特筆すべきことはない。 (4)特筆すべきことはない。	(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)「考えよう」で自分の課題を見つけさせることができる。1、3年生で「選択課題」の教材を設けている。 (3)特筆すべきことはない。 (4)特筆すべきことはない。	(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)「活用のヒント」は国語教材と関連がある。考えたことやポイントを書き込む欄がある。 (3)特筆すべきことはない。 (4)特筆すべきことはない。
5(1)毛筆の内容について		・毛筆手本数8(1年＝楷書1・行書2 2年＝行書4 3年＝行書1 内半紙大3)である。 ・書き初め手本は、巻末各学年実物大1、学習のポイントに記載している。 ・手本の解説①筆順の記載はない。②「書くときのポイント」をページ端に記載し、既習事項も参照させている。③行書の運筆を4つのパターンに分類し各手本で、どのパターンか確認させている。 ・手本の字体は、楷書・行書ともに毛筆の特徴が表れている。	・毛筆手本数12(1年＝楷書3・行書2 2年＝楷書2・行書3 3年＝楷書1・行書1 内半紙大8)である。 ・書き初め手本は、各学年ごとに実物大1、書くときの注意点は参照ページに記載している。 ・手本の解説①筆順を楷書・行書ともに記載している。②1年はポイントの提示をし、2、3年の注意点は参照ページの記載のみである。③発展として臨書手本を3本掲載。毛筆学習の意義を明示している。 ・手本の字体は、楷書・行書ともに毛筆の特徴が表れている。	・毛筆手本数8(1年＝楷書3・行書2 2年＝行書3 3年＝0 内半紙大1)である。 ・書き初め手本は、1年末と巻末に各学年実物大1、書くときの注意点は記載がない。 ・手本の解説①筆順は楷書のみ記載している。②書き方の特徴を運筆中心に図示し、解説している。③「考えよう話し合おう」で欠点のある見本を修正させる課題がある。 ・手本の字体は、楷書は活字的だが、行書は毛筆の特徴が表れている。	・毛筆手本数11(1年＝楷書2・行書3 2年＝行書4 3年＝行書2 内半紙大1)である。 ・書き初め手本は、1年末と巻末に各学年実物大1、目標と振り返りを記載している。 ・手本の解説①筆順は楷行ともに記載している。②穂先の写真と朱墨の濃淡で運筆のポイントを明示している。③基本点画に筆圧の違いを明示している。全ての手本に中心線の点が印刷されている。学習の流れが明示されている。 ・手本の字体は、楷書は活字的だが、行書は毛筆の特徴が表れている。	・毛筆手本数10(1年＝楷書1・行書4 2年＝行書2 3年＝行書1 補充教材＝行書2 内半紙大なし)である。 ・書き初め手本は巻末に各学年実物大1、説明の記載はない。 ・手本の解説①筆順は楷書・行書ともに記載がない。②「学習の窓」で課題を説明し、手本全体の筆脈を点線で示している。③基本点画に筆圧の違いを図示している。全ての手本に中心線の印が印刷されている。解説は空欄に用語を記入させるワークシート形式である。 ・手本の字体は、楷書・行書ともに毛筆の特徴が表れている。
(2)伝統文化に対する取扱い		・六書、書体の変遷について解説がある。 ・巻末が日本の伝統と季節を感じさせる。 ・古典や俳句・短歌・漢字の成り立ち、ひらがなの始まりなどがある。	・書体の変遷について解説がある。 ・臨書や篆刻の発展教材がある。	・いろは歌や六書、書体の変遷について解説がある。	・いろは歌や書体の変遷について解説がある。 ・日本の建築と書のページがある。	・六書、書体の変遷について解説がある。 ・書院造が取り上げられている。 ・日本の季節感に着目させている。
(3)生活に生きる書写		・1・2年次には目標、年賀状、好きな言葉について「生活に広げよう」という項目が用意されている。 ・3年はまとめの学習になっている。	・作文やお祝い、はがき、宅配便の書き方など、様々なものが取り上げられている。全体的な量は多くない。	・「実生活に生かそう」の単元を技能習得の単元の間に入れている。	・1年は学校生活に即したものが中心、2・3年は日常生活に即したものが中心に取り上げられている。	・資料には「日常生活の書式」「活用のヒント」などがあり、実生活に書写を生かす方法が載せられている。